

月刊 やちまなこ

2020.11.15 発行

No.276

11 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

釧路湿原から見える山の雪も平地に降りる頃となった。寒暖の差も大きくなり、蒼く澄んだ湖にはオオハクチョウが羽を休める姿が見える。既に湿原は冬の装いとなり、日の出直後の気温は一気に下がって、指先も徐々に冷たくなり始めた。やがて陽射しを受けた所からキラキラと輝く景観が目の前に広がる。湖からオレンジ色の靄が立ち上り、眠りから覚めたオオハクチョウも次々と大きく羽を広げ、辺りにはカモの仲間も集まり、水辺も賑やかになり始めた。一期一会の世界、明日はどんな姿を見せてくれるだろうか。



塘路フィールドノート【10/15～11/14】

【野鳥】

昨年に比べて渡り鳥の飛来がやや遅れ気味の今年の秋ですが、11月中旬を迎え、水鳥たちはほぼ勢ぞろいしました。色彩的に徐々に寂しくなりつつある風景とは裏腹に、湖面は凍結するまでの間、東の間の賑わいを見せます。



オオハクチョウ（塘路湖）

湖上を通過していった小群。11月に入って湖面にもその姿が徐々に増えてきています



アオサギ（塘路湖）

色鮮やかな対岸の山の上を飛んでいきました。秋の風景の中を飛ぶ姿は一際優雅です



ユリカモメ（塘路湖）

湖面めがけて急降下する瞬間。色付く山並みを背景に湖上を飛ぶ姿は秋の風物詩です



オオバン（塘路湖）

水中から湖面に上がってきたところ。嘴には湖底で採ってきた水草をくわえていました



カイツブリ（塘路湖）

センターの前を通過していった2羽。夏鳥ですが、塘路湖では例年秋によく見られます



カンムリカイツブリ（塘路湖）

最近よく見ます。沖合にいたことが多のですが、時々岸边近くにいることもあります

【植物】

紅葉・黄葉がピークを迎え、赤や黄色の色彩で溢れていた10月下旬の塘路湖畔。しかし、11月中旬を迎えた現在、樹々は落葉が進み、近づく冬の足音とともに、湖畔は暖色の光景から寒色の光景へと徐々に移り変わっていきます。



イタヤカエデ（塘路湖畔）

今秋、随一の色付きだった一本。鮮烈で燃えるような赤にしばし目を奪われました



カラコギカエデ（塘路湖畔）

センター前の道路で少数見られる樹木。艶のあるワインレッドの葉が一際目を引きます



ニシキギ（塘路湖畔）

真っ赤に色付いたセンター前の木。青い空と湖面が葉の色を一層際立たせてくれます



ハルニレ（塘路湖畔）

黄葉のピークをやや過ぎた大木。地面を覆う落ち葉との色のバランスがよい感じです



ミズナラ（塘路湖畔）

派手さはないものの、滋味深い色合いを見せる葉。中には赤く色付くものもあります



カラマツ（元村キャンプ場）

他の樹木の落葉が進む中、真っ黄色に色付いていました。晩秋のトリを飾る色彩です

◎エゾリスと出会う秋

今年は塘路湖畔でエゾリスの姿をよく見かけます。それほど個体数が多い（と思われる）ことから、通常、塘路湖畔ではエゾリスと遭遇する機会はあまりないのですが、今年の秋は散策道近くに度々現れ、我々の目を楽しませてくれます。

現在、エゾリスは冬支度の真っ最中。クルミやドングリなどをせっせと集め、それらの実を土の中に埋めるなど冬の備えをしています。

もし、湖畔を散策中、近くでガサゴソと音がしたら、周囲を探して見ましょう。



◎オリジナルムックリを作りました

自然ふれあい行事「ムックリを作ろう」を10月17日に開催しました。ムックリ（口琴）とはアイヌの人たちが使っていた楽器で、独特な音色を奏でます。当日は塘路在住のクラフト作家の小岩佐和子さんに、材料の竹や彫刻刀で削る作業などの説明を受けたあと、作業に取り掛かりました。特に音色を出す部分の根元は2ミリくらいの厚さになったら、手の甲で叩きながら振動音を確認して慎重に削りましたが、その都度講師が参加者のムックリを調整していました。出来上がったムックリに紐を2ヶ所通して完成後に講師から紐の引く角度や力加減、口の当て方などの説明を受け、締め言葉「あとは練習あるのみ」で講座を終えました。参加者6名はオリジナルムックリが完成して満足していたようです。今回はコロナウイルス感染拡大防止のため、そのまま持ち帰ってもらいました。



参加者 6 名

◎晩秋のシラルトロ湖で水鳥を観察しました

10月24日(土)、水鳥たちで賑わうシラルトロ湖で今シーズン最後の野鳥観察会を開催しました。この日は風が比較的穏やかで天気もまずまず。絶好の野鳥観察日和だったものの、残念ながら、この日のメインターゲットであるヒシクイやオオハクチョウなどの水鳥たちは湖岸の観察ポイントからかなり離れた位置にいて、近くでじっくり観察することがなかなかできませんでした。

しかし、講師と参加者全員で粘り強く湖面を観察し続けたところ、遠目ではあるものの、比較的多くの種類の水鳥を観察できたほか、終了間際には観察ポイントの近くに人気のシマエナガが群れで飛来するなど、予定の時間を超えた後も、皆さん夢中で野鳥の姿を追いかけていました。

結局、この日観察できた野鳥は21種となり、この時期の観察会としてはまずまずの結果となりました。参加者9名



12月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

塘路フィールドウォッチング ～初冬編～

[日 時] 12月5日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の「かたち」を見て歩こう

[日 時] 12月6日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 10/15(5:35,16:40). 10/31(5:55,16:16).11/14(6:12,16:00)

～編集後記～

■足早に紅葉シーズンも終わり、平地にも雪が降る季節を迎えました。寒暖の差も大きくなり、先日も早朝の気温が氷点下8℃を記録しました。体調管理の徹底と思っているのですが、普段の不摂生から中々抜け出せないようです(反省)。御存じのように北海道も新型コロナウイルス感染者が増えていますが、当センターでも感染リスクを抑える対策をしながら対応していますので、来館の際は皆様の御協力をお願いします。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料